

業務概要

目的

ユニバーサルデザイン(UD)のまちづくりの取組みが近年提唱されているが、福祉のまちづくり条例のガイドラインやマニュアルに基づく整備だけでは、不十分であることも指摘されている。そこで、障害のある人と共に、まちの環境をUDの視点から検証するワークショップを通じて、具体的に多様なニーズを実感する研修を実施した。

なお、障害理解を中心に据えた研修とした理由は、健常者に対応したまちづくりに比べて、障害に配慮した整備技術が圧倒的に遅れていること、UDまちづくりに携わる技術者が、障害のある人との交流がほとんどないこと等から重点的に取組んだ。

ワークショップの企画

UDのまちづくりの考え方を学ぶ座学

バリアは環境が作り出していることを知り、障害のある人の多様なニーズを具体的に知るために、障害のある専門家の講演を行った。

UDまちづくりの先進事例の視察

世田谷区の25年にわたる“やさしいまちづくり”について、梅ヶ丘地区を中心に、整備に関わった障害のある区民を招いて、評価を伺いながら視察した。

UDまちづくりの必要性を実感するまち歩き

障害のある人と少数数のグループで、駅の構内からオフィスまで、バリアフリーの経路を探し、バリアフリーの店舗で買物、飲食を体験して、障害のある人のニーズを実感した。

研修の概要

UDまちづくりの考え方を学ぶ

障害のある人と直接話したことのない技術者も多いことから、研修では車いす使用のUD専門家、まちづくりのワークショップの経験豊富な視覚障害者、聴覚障害者の講演を行い、全員が意見交換に参加するプログラムとした。

UDまちづくりの先進事例の視察

世田谷区で実践されている、障害のある区民、地域の住民、商店街、区役所、コンサルタントによるUDを目指した道づくり・まちづくりについて関係者から取り組みの経緯及び評価を伺い、実際のまちを視察した。

UDまちづくりの必要性を実感するまち歩き

車いす使用者又は視覚障害者と共に、3～4人で駅からオフィスまで移動し、途中買物、食事をする中で現状のまちの中に存在するバリアによる困難さを体験し、UDの視点の重要性を実感し、業務の中で取組む重要性を確認した。



研修の評価

- ・ “気づく”ことができた (障害のある人との距離が縮まり意識改革になった。障害のある人と行動を共にすることでUDに関する理解が深まった。直接聞くことで“記憶に残った” など)
- ・ 車いすの体験でわかったことがあった (まちには思った以上に段差が多いこと、僅かな段差や勾配でも影響があること、エレベーターがあっても必ずしもバリアフリーのルートが連続しているわけではない など)
- ・ 障害のある人が参加した研修の意義 (生活弱者とされる人の視点に立って見るようになった など)

* 研修後徴収した「気づき、疑問・質問、自らの業務への展開」等の感想の一部を抜粋